

## 「めおん」と芸術祭

「めおん」は、高松港と女木島、男木島を結ぶフェリーの名前です。女木島と男木島→女と男→雌（めん）と雄（おん）→めおん、です。赤と白で塗られた、小柄で可愛い船体のこのフェリーをテーマとした映画「めおん」がこのほど完成し、高松で先行ロードショーが行われました。映画の舞台は当然、瀬戸内海に浮かぶ女木島と男木島、それと高松。美しい景色と島に住む人たちの温かさ、それに子どもの純粋さとその存在のありがたさを背景に、男女の愛情の機微を3つの物語に仕立てています。

この舞台では、いよいよ7月19日の海の日から「瀬戸内国際芸術祭2010」が開催されます。「海の復権」をテーマとしたこの芸術祭は、瀬戸内海の島々にアートが関わることによって、住民、特に島のお年寄りたちを元気にしたいという願いも込められています。それは、映画「めおん」が伝えたいものとも重なります。

島では着々と芸術祭の準備が進められています。中でも、スペインを代表する芸術家ジャウメ・プレレンサ氏デザインの男木交流館の建築がいよいよ最終盤を迎え、わくわくした気分が高まっています。アート作品が施設を包むというユニークなこの館は、間違いなく来訪者の大きな注目を集め、地域のランドマークとなることでしょう。その他、女木島には世界のギャラリーが入る福武ハウスも含め9組、男木島には16組のアーティストやプロジェクトが入り、作品を展開する予定です。

「女木島がニューヨークにあれば、地価が一番高いのではないか」、という話を聞いたことがあります。高松の中心部への通勤や通学が十分可能な近距離にありながら、喧騒や雑踏から無縁で、山と海が至近で環境は抜群、欧米人なら富裕層が競って自宅や別荘を建てるのではないか、ということでした。一挙にそんな劇的な変化は起こりようもありませんが、この芸術祭は、大島も含めて、女木島、男木島という高松市の離島の未来を新たな局面で切り拓いてくれそうな気がしています。

芸術祭期間中、増便され、フル稼働となるフェリー「めおん」が数多くの人を運び、その心と心を繋ぎ、映画の3つの物語に続く新しい物語を次々と生み出してくれることを、期待したいと思います。